

Title	知恩院史(井川定慶編, 知恩院發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.2 (1937. 6) ,p.158(322)- 158(322)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0159">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0159</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

養嗣子となり家業を承けて農の傍木綿問屋を營み、菊間藩主水野出羽守の用達を務む。又國學者村上忠順に就いて皇學並に和歌を研鑽し、勤王敬神の念夙に篤く、天誅組の義舉に給資し、敗戦するや、其の志士等四十餘名を庇護す。文久以來、有栖川宮の密旨を奉承して金品を獻じ、熾仁親王東征大總督として東下の際岡崎に出で奉迎し、其の頃尾參間に奔走して志士を糾合し赤心・報國等の諸隊を編成し、親王の西上に際しては一族と共に隨從し、歸國に際しては特に謁を賜ひ、御懇命を拜す。篤慶、歸郷の後は敬神興學の事に私財を投じ、又岳父忠順の爲め古書珍籍を蒐集して「千巻廻舍文庫」を創設し、或は國學和歌の書を上梓し、郷土の教化に力む。明治十四年三月二十五日病歿、年五十四。後大正二年十一月十七日、生前の功を追賞あらせられて從五位を贈らる。

篤慶妻愛子は忠順の女にして内助の功多く、晩年史談會の請に依り數回、夫君篤慶、父忠順その他一族の維新に於ける國事奔走の事歴を談じて居り、これは印行の史談會速記録に記載され貴重な維新史料である。昭和十二年三月（武田勝藏）

## ● 知恩院 史（知恩院定慶編）

法然上人の立教開宗以來七百六十餘年間、法燈燐然として輝く洛東の一大伽藍たる華頂山知恩院門跡に於ては、今次、祖徳顯彰の遠忌大法會を機會に知恩院史なる大書を上梓頒與せられた。

本書は之れを四篇に輯み、第一篇に知恩院の法脈傳燈を悉記し、第二篇に宮門跡創設前後よりの皇室關係を謹述し、第三篇に文化

史上に於ける知恩院の位置を詳記し、第四篇に年表を掲記し、開祖と歴世の略歴、知恩院の重要事項を摘記し、宗勢寺運の消長を一目瞭然たらしめ、第五篇に本論に使用せざるものにして、研究上必要と認められたる文治二年より明治十四年に至る参考資料を輯錄する。又挿入幾多の圖版は本論引用資料と共に讀者をして一層院史を了解せしむるものがある。

終に本史編纂主任井川學士以下の筆労に敬意を表し、この新刊を紹介し、又同宗宗運の益々隆昌ならむことを祈るものである。  
昭和十二年三月（武田勝藏）

## 日本古文化研究所報告 第四

### 近畿地方古墳墓の調査 上野國總社二子山古墳の調査

日本古文化研究所報告第四として近畿地方古墳墓の調査（梅原末治氏）と上野國總社二子山古墳の調査（田澤金吾氏）の二報告が併せて上梓せられた。前者には

河内四條畷村忍岡古墳

攝津萬籠山古墳

丹波篠村樹塚古墳

近江和邇大塚山古墳

近江安土瓢箪山古墳  
伯耆下北條の一古墳